

第 50 回炉物理夏期セミナー：参加者からのコメント（講師も兼ねた立場から）

講師も兼ねた参加者からのコメントとして、名古屋大学の遠藤知弘氏からご寄稿いただいた。

=====

炉物理夏期セミナーの振り返り

遠藤 知弘

講師として参加させて頂きましたが、特に巽さんと長家さんの実習内容は非常に刺激的で、新しい学びに満ち溢れた夏期セミナーだったかと思います。最近の自分自身の研究活動を振り返ると、Python を用いてプログラミングすることも多いのですが、この夏期セミナーにおいて Jupyter notebook を活用した演習による講義方法を知ることができ、教員として新しいスキルの基礎を身に着けることができたように思います。細かいノウハウで言うと、夏期セミナー講義資料の作成作業を通じて、①Visual studio での Anaconda や GitHub の使用方法について学べた点、②SCALE6.2/PALEALE モジュールを利用した核反応断面積データの抽出・データ整理方法の技術を習得できた点も個人的には収穫があったと思います。私見になりますが、夏期セミナーの大事な点は「一から十まで懇切丁寧に説明してもらって分かった気になる」のではなくて、巽さんや長家さんといった「経験に富んだ諸先輩方から『こういった便利な方法・機能があるんだよ』といった情報の触りを知ることができる」点にあるのではないかと感じております(そういった有益な情報を知ることさえできれば、詳細な点はググって解決できるため)。

遠藤担当分の講義について、「参加者」の立場からダメだしすると、時間内にはおさまってはいったものの内容が盛り沢山過ぎたため、質疑応答の時間が十分取れなかった点が反省点となります。数値計算コードをプログラミングして終わりとならないよう、Godiva による V&V の内容まで私としては含めたい強い想いが満ち溢れていましたが、2 群拡散計算コード程度の作成までに留めておいて、もっとプログラミングの詳細説明を行ったほうが、Python やプログラミング初心者にとっては有益だったのかもしれない。というのも、長家さんのモンテカルロコード作成演習は、1 群モンテカルロ計算までの講義内容に留まっていたのですが、基礎的な内容から完成に至るまでを step-by-step で実演しながら説明して下さったため、(学部 4 年生時に多群モンテカルロコードの作成経験があるとはいえ)個人的には非常に分かりやすかったからです。もっと受講生に考えさせながら実習を進めれば、長家さんの内容だけで 1 日分、あるいは 1 回分の炉物理夏期セミナーの演習講義になるのではと感じたほどです。

会場ホテルでは、講師も務めて下さった藤井 宏之 先生と同部屋でしたが、気さくに色々

なお話を伺うことができ、ともすると狭い炉物理分野の中だけに閉じ籠りがちな私にとって非常に良い異文化交流の場でもあったかと思います。私が学生時代に作った角度分点 (EO_N) を輻射輸送方程式の計算に利用して検討して下さっており、「自分が作った分点をもっと改良できないものか」と一つ宿題(今後の研究ネタ)もできたように思います。

あと参加者の立場からすると、セミナー開始前までにテキスト電子データがインターネットから入手できて予習できた点は、学習効果的に非常に良かったのではないかと思います。ただ、講師の立場からすると、テキスト執筆・Python プログラム含めた入念な準備に相当な負担(プレッシャー)が有りました…。夏期セミナーテキストを入手された皆様方におかれましては、「勉強用に一冊、保存用に一冊、布教用に一冊」とまでは申しませんが、是非とも大切にご活用頂きますと幸甚です。

以上